

第3回学校協議会の報告

平成29年2月1日(水)10:30より、平成28年度第3回学校協議会を開催しました。次の4点について校長、教頭、首席、各分掌から報告・説明しました。

- 平成28年度学校経営計画進捗状況について
- 平成28年度学校教育自己診断から
- 平成28年度授業アンケート（第2回）から
- 平成29年度学校経営計画および学校評価について

続いて委員の皆様からの授業見学、報告に対して協議に入り、今後に生かす具体的なご提案と貴重なご意見をいただきました。

➤ 委員からの提言

- ・夕陽学の課題設定、研究、発表のスタイルが各教科に取り入れられるようになれば、次の新学習指導要領がめざすものに近い形になっていくのではないだろうか。
- ・夕陽学の今後のスタイルとは？ 今後は1年次の総合学習の導入のスタイルで残っていくのだろうか。
- ・夕陽学の教員連携の面については、実施は第一学年であったとしても「夕陽学プロジェクト」等、組織化し、各教科より代表者をつのったりすることで、他人事ではなくなるのではないかと。そうすることで各教科にも方法を持ち帰りやすくなり、より夕陽学を各教科に還元していけると思う。
- ・海外の学校と交流をする際に、何を交流するのかより具体的に決めるとよりよいものになる。単なる海外の学生と雑談でコミュニケーションをとるよりかは、ディベートを英語で討論してみたりするなど、より論理的討論をすると実りあるものになる。
- ・また各教科におけるグローバル、国際的な部分を一覧化してみると、教育の4つの柱である「国際理解教育」ではなく「グローバル人材の育成」などの文言に変更した方が本来求めているものに近づくのではないだろうか。
- ・スマートフォンを持つというのは、小中学校と大きく変わるところである。高校生とスマホの付き合い方を教えてあげなければいけないと思う。

以上を受け、来年度は、①学業以外のことを学業につなげていくことができるようにしていくこと②家庭学習時間を増やしていくこと。③夕陽学を生かしながら各教科につなげていくこと。④カリキュラムマネジメントを取り入れ、教科の「見える化」をはかっていき連携を図る。ことを、充実させる。また、スマートフォンの問題については学校としても取り組まなければいけないことであり、現在は情報科と人権推進委員会が連携し、情報モラルを学んでいる。講演会なども実施し指導していく。ことでまとめとした。

第2回学校協議会の報告

平成28年10月18日(火)13:55より、平成28年度第2回学校協議会を開催しました。授業見学の後、次の2点について教頭、首席から報告・説明しました。

- 平成28年度学校経営計画進捗状況について
- 今年度の新たな取り組みから
 - ・YGR (Yuhigaoka Global Revolution) の発足
 - ・育成支援事業によるミドルリーダー育成研修について

続いて委員の皆様からの授業見学、報告に対して協議に入り、今後にかかす具体的なご提案と貴重なご意見をいただきました。

- 授業見学から
 - ・電子黒板のスキルの情報交換や活用アイデアの伝播が必要。
 - ・教えてもらう側である生徒から、この授業やこの場面では、こういう使い方をしてほしいという意見を聞く必要がある。
 - ・生徒が受け取る情報量が増えるため、ノートを書き写すことに必死になり、受身になる可能性がある。
 - ・中学校ではノートを作る練習が必要だといわれている。穴埋めのプリントを埋めるだけでは、考えたことが表現できない。
 - ・高校において英語の授業は、オールイングリッシュで教員が進めていく必要がある。
 - ・将来的には、生徒がもっているiPadへ送信し、能動的な活動が可能になる。
 - ・電子黒板について、授業評価アンケートで項目を作り、ひとクラスでも良いのでデータをとってみてはどうか。電子黒板の良い部分と課題を明確にする必要がある。
- 学校経営計画の進捗状況について
 - ・生徒の下校中の様子を見ている、グループで話をしながら帰っている。これは、防犯・防災にもつながる。
 - ・従来までは、教員1人で担当していた仕事を、保健主事と教育相談委員長に分担し、保健室にあった教育相談室を独立して移設した。
 - ・学校の風通しが、良くなってきている。
 - ・この規模の高校で、いじめがないことはすごいこと。
 - ・生徒集団が良いと、いじめ防止や解決に向かう雰囲気になっている。
 - ・保護者、地域全体でいじめをしない関係作りができています。
 - ・数値に上がってきていない問題について、SNSを適正に利用できるように、携帯電話会社へ講演を依頼し、未然防止に取り組んでいる。
- 各委員より、学校全体に関する意見
 - ・英語力をさらに高める取り組みが必要。昔ながらのオーソドックスな授業が見受けられたが、何か取り組みがなされているのか。
 - ・英会話塾ベルリッツを放課後に開講し、きっかけ作りを行っている。留学生と英語で会話する機会を増やし、生活の中で英会話ができる機会をさらに増やしていく。
 - ・受験のための英語とコミュニケーションのための英語は、混在して良いと考える。
 - ・大阪市立大学でのメタセコイヤ・レジリエンスの研究は良い取り組みである。
 - ・生徒は、失敗しながら成長していく過程が大切である。
 - ・教員の多忙について、何もかも教員に求めてはいけない。4つの夕陽丘教育の柱を優先し、そのなかでさらに優先順位をつけてやっていけば良いのではないか。
 - ・受験英語とコミュニケーションへ活用する英語は異なるので、コミュニケーションの英語は、留学生と生徒の意志で、受験英語は授業の中で身につけさせてあげるべきではないか。
 - ・ICT機器活用やオールイングリッシュの授業は、教員のできる範囲でやれば良い。
 - ・夕陽丘の生徒には、海外留学のための英語力以上に、海外進出できるレベルを目指した英語力を身につけてほしい。

校長あいさつ

順調に、学校経営が進んでいるということについて、同窓生・PTA・地域の方々の「学校を良くしていこう」という気持ちのおかげである。例えば、学校説明会前にはPTAの方々が主体的に毎回清掃活動を行っている。また、ホッケー部は学校に恩返しをしたいという気持ちから、自主的な清掃活動を実施している。今後は、天王寺区での清掃活動に生徒主体で参加して、地域貢献をしていきたい。また、英語教育・電子黒板・タブレットの今後の可能性についても、考えていきたい。

第1回学校協議会の報告

平成28年5月25日（水）14時より、平成28年度第1回学校協議会を開催しました。次の3点について校長、教頭、国際交流委員長から報告・説明しました。

- 平成27年度学校評価、平成28年度学校経営計画について
- 平成28年度授業アンケート（前期）について
- 国際交流委員会の活動報告

続いて委員の皆様からの提言に対して協議に入り、今後に生かす具体的なご提案と貴重なご意見をいただきました。

- 委員からの提言
 - ・音楽科と普通科の生徒が、互いに発言できる「スピーカーズ・コーナー」を設けてはどうか。
 - ・戦前から続く国際交流を戦略的に推進し、「海外進学コース」を設ける。
 - ・夕陽丘スタンダード打ち立て、「夕陽丘らしさ」を確立する。
 - ・昨年より、英語によるディベートで本校と関わりを持ち、要所でしっかりと発言できていた。
 - ・地域・保護者との連携もよく、メルマガは話題性にもつながる。
 - ・大阪府下においてCan-Doリストの使用率が低い現状について、夕陽丘スタンダードに合わせて作成していく必要がある。
 - ・平素より「ありがとう」等の言葉を発することができる生徒がいる。これからも、「心の中の成長」を大切にしていきたい。
- 提案・意見
 - ・生徒個々の活動が信頼関係につながる。「スピーカーズ・コーナー」は、場面を検討し、自治会などを通して考えていくことも可能。
 - ・夕陽丘は音楽科を新設することによって質を上げた。風通しを良くし、2つの科があつての夕陽丘という認識が重要。違いがあつて当然で、互いに違いを認め合うことは「グローバル人材」育成にもつながる。
 - ・海外の大学へ直接進学する生徒が増加、進路選択の1つとして成熟してくると、「海外進学コース」といったコース化も可能かもしれない。
 - ・2020年大学入試センター試験の廃止後、授業コンテンツ作りが必要。
具体的には、アクティブラーニングを活用した授業により、コミュニケーション能力の向上や新たな受験の形にも対応できる。そのためにも主体的・協働的学習のための授業改善が必要である。
 - ・創立110周年は、あくまで通過点であるが、これを機に「All・夕陽」で取り組み、活性化させる。
 - ・学校という場や教員は、社会で1番グローバルから遠い。夕陽丘の「グローバル」の定義を作る必要がある

最後に、校長から、いただいたご意見を踏まえて、できるところは実現させていくこと。さらに、次回は主体的・協働的学びを取り入れた授業改善と110周年に向けての取り組み及び学校経営計画全体の進捗について各担当より報告することをお伝えし、終了としました。